

自然豊かな海と山、豊富な食 — すべての宝をつなぐ —

棗公民館

1 棗地区の概要

JR福井駅から北西へ18km、坂井市三国町に隣接する砂丘地帯に位置している。丹生山地を中心とした林業、三里浜砂丘地のらっきょう・すいか・大根・トマト、九頭竜川沖積地の稲作と、第一次産業が地区の主産業である。地元の棗小中学校では、50年続く「らっきょう切り」が老人クラブの指導を受けて毎年行われ、学校あげでの伝統行事となっている。



近年、テクノポートには化学工業中心の工場が数多く進出してきている。テクノポート造成とともに整備された三里浜

緩衝緑地は、芝生広場がいくつも散在し、林間の遊歩道はすばらしい憩いのスポットになっている。

地域の中央に位置している朝倉山(標高約173m)は棗小中学校校歌にも歌われ、地域の宝として親しまれている。

戦国時代には朝倉義景の一乗谷奉行衆の一人、朝倉玄蕃助景連という武将が頂上に居館を築いて一向一揆に備えた。また、太平洋戦争中の昭和16年には防空監視哨が設けられて棗村や三国町の人々が海や空の監視を続けた。居館跡からは経筒が発見され、納められていた経巻は当時の仏教思想に関する貴重な資料として資料室に保管されている。平成30年1月1日現在、人口は1,642人、世帯数は570戸である。

2 地域のシンボル・心のふるさと朝倉山

(1) 朝倉山の整備活動

20～30年前まで、山頂は子どもたちの格好の遊び場であったが、その後は登山道の木々や雑草が伸び放題となり、いつしか訪れる人も少なくなった。ふるさとの風景を取り戻そうと、夢プラン実行委員会や壮年会によって、5年の年月をかけて登山道と山頂広場の整備を行った。平成15年には山頂に杉の間伐材を利用

した展望台を設置し、完成披露ハイキングで頂上を訪れた親子たちは展望台からの絶景に歓声を上げ、メッセージ付きの風船を飛ばして祝った。

平成25年には、展望台に鐘を取り付けて全国にその愛称を募集し、地元中学生の「棗鈴」(そうりん)が選ばれた。近年、展望台も老朽化し、平成30年には新たな材質による再建が計画されている。

そして、地域住民や多くの人々にいつまでも親しまれるよう、まちづくり団体の「自然王国なつめ委員会」では、毎年、春と秋の年2回、朝倉山整備事業として山頂付近の草刈りや登山道の整備、山頂の展望台の補修作業を行っている。



(2) 朝倉山で学ぼう

郷土学習として、例年10月に朝倉山登山を実施している。40名を超える参加者は、登山を通して地区の宝を再発見し、下山後には県農林総合事務所の方

や、自然王国なつめ委員会の指導で間伐材の学習や、間伐材を使った木工クラブ作りを実施している。



3 地域活性化にむけて

少子高齢化が進む地域の実情を踏まえて、これからの棗地区がますます活性化するように、次代を担う中学生・高校生や、20代の若者たちの郷土愛を育んだり、女性たちが気軽に地域の行事等に携わることができるような組織づくりを行ったりなど、地域の担い手を増やしていくための様々な取組を行っている。

(1) 高1のつどい

若者事業として、棗地区に住む高校1年生を対象に学習会を実施している。平成27年11月には、市まちづくり国際課職員のファン・サンタマリア氏を講師に招き、福井市とフラトン市との交流などに関する講演会を行った。講演の後には、同窓会を兼ねた簡単な食事会を行い同じ地域に住む仲間としての交流を深めることができた。



平成28年12月には、医療短期大学の方の指導により乳児の人形を使った研修会を実施した。命の大切さや尊さを学ぶとともに、これまでの自分の成長を振り返るよい機会となった。



また、毎年夏に実施される「なつめ祭り」には、中1と高1の生徒たちがボランティアとして参加し、お店の接客などの手伝いをしている。

(2) 25才のイルミネーションづくり

若者地域参画事業として、地区に住む25才の青年に呼びかけ、公民館に飾るクリスマスイルミネーションづくりを行っている。平成28年11月26日、忙しい仕事の合間をぬって公民館に集まり、構想を考えた後に玄関周辺の飾り付けを行い、久しぶりに会う旧友と語りながら楽しいひとときを過ごした。

自分たちの行動が地域に役立っているという意識が高まり、少人数の参加ではあるが、大変意義のある事業となっている。

(3) なつめ小町17(いいな)の誕生

「年齢を重ねて、地域の仲間を大事にしたい」「子や孫が暮らす棗を良くするお手伝いをしたい」といった思いをもつ、地区在住の55歳から74歳までの女性グループ、「なつめ小町17」が今年4月に誕生した。現在29名の会員で、ポーセラーツ体験(6月)、夏祭り模擬店での特産物販売(7月)、小町カフェ(10月)など、仲間づくりや地域行事への参加など、気軽に多彩な活動を展開している。女性パワーで、今後ますます棗地区が元気になることを期待している。



4 終わりに

これからも棗の宝でありシンボルである朝倉山をしっかり守り続けていくとともに、朝倉山にまつわる様々な行事等を継続していく中で、地域住民の郷土愛を高めていきたい。

そして、年々少子高齢化が進み、地域の活性化が大きな課題となっているため、小・中学生や高校生など、地域の将来を担う若者たちが魅力を感じるような事業や、海山の豊かな自然を生かした活動を通して地域参画の意識を高めていきたいと考えている。また、今年新たに発足した女性グループ「なつめ小町17」の生き生きとした活動にも大いに期待をしている。

今後も地域活性化のコーディネーターとして、地域住民のニーズを把握し、各種団体との連携をさらに強化して取り組んでいきたい。

公民館の2階資料室には、数々の貴重な資料が展示されており、地域の伝統と歴史をうかがい知ることができます。

地域のシンボルである朝倉山を大切に守り続けるとともに、若い世代や女性の地域参画意識を高めるための様々な取組が、今後の地域活性化に繋がっていくことを大いに期待しています。